

平成30年度
広島県瀬戸内高等学校一般入学試験問題

国語

(50 分)

..... 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験番号	
------	--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

他人を羨ましい①うらやまと感じるときがある。羨ましいなどと思つてはいけないう人もあるが、このような感情は勝手に生じてくるので、いかんともし難いものである。それはいけないというので、一生懸命に抑えこもうとしたり、羨ましいなどと感じる自分は悪い人間であると、自分を責めたり、卑下ひげしたりして、余計に問題を大きくしてしまう人もある。

羨ましい気持が起こったら、それは自然に生じてきたことだから、よしあしを言う前にそれはそれと認めることにしよう。そして、いたいそれがどのあたりから来ているか、考えてみることにしよう。あんがいなことが見つかるものである。

羨ましいというのは、物にしろ能力にしろ、ともかく自分の持つていないものを他人が持つていて、というところに生じてくる感情である。しかし、自分の持つていないものを他人が持つているときに必ず生じるとは限らないところに、その不思議さがある。

《 A 》、自分は数学の才能が無いときに、知人のなかに数学のできる人が居たとする。そんなとき、別にそれだからと言って、何も感じないときもある。つまり、自分の生きてゆくこととあまり関係がないのである。また、その人を尊敬することもある。羨ましいと感じるよりも、偉い人だと感じて尊敬の気持が湧いてくる。このような場合のことを考えると、羨ましいというのは、他人が何か自分の持つていないものを持つていているという事実プラスされるX④がないと生じない、ということがわかる。それでは、そのXは何なのだろうか。

カウンセリングの場面で、「羨ましい」ということは比較的よく語られる。時には、自分の「I」を嘆く形で表現される。自分は若いときに病弱だったのでスポーツができなかった。それに比して、自分の弟はスポーツがよく出来て、そのために有利なシユウシヨク⑤まで見つけてきた。同じ兄弟でありながらどうしてこんなに違うのだろうか。弟に比べて自分は何と不幸なのだろうか、と嘆きは続くのである。ところで、この人の場合、スポーツのできる人や、健康な人すべてに羨ましいと感じるのではなく、特に弟に対してそれを強く感じるところに、何かヒントがあるように思われる。そこにXが存在している。

カウンセリングのなかで「羨ましい」気持が表明されるとき、その話に耳を傾けながら、その人と共にそのXの正体を見出そうと努力する。それはなかなかうまくゆかぬときもあるが、結論を言ってしまうえば、その人の心のなかの何らかの未開発の可能性を見出すことになってくるのである。

先程の例で言えば、スポーツマンの弟を羨ましがっていた人が、弟は有利なシユウシヨクができたので羨ましいという話に変わり、そのうちに、自分は弟のことばかり言っているが、自分は現在の職場でやり抜かねばならぬことがあるのに、それが嫌でやっっていない。

これは自分が弟に比べて不利な職場にシウウシヨクしたので、それほど頑張らなくともいいという理由づけをして逃げていたことなのだ、というところまで話が進んでくる。

Ⅱ などという口あたりがいいが、人間というものは、なるべくなら難しいことや苦しいことは避けたいと願っているところがある。そして、可能性を開発してゆくと、多くの場合に困難や苦しみはつきものだと言っているだろう。

《 B 》、自分にとって実に多くの未開発の部分があるなかで、特に何かが「羨ましい」という感情に伴って意識されてくるのは、その部分が特に開発すべきところ、あるいは、開発を待っているところとして、うずいてることを意味しているのである。

ある個人にとって、やらねばならぬことややれることは山ほどあるはずである。そのなかで「羨ましい」という感情は、どの「方向」に自分にとっての可能性が向かっているかという一種の方向指示盤としての役割をもつてシユツゲンしてきているのである。そして、はじめは困難や苦痛を伴うにしろ、自分が発見したことをやり抜いてゆくと、ある程度経てば、その面白さもわかってくるし、その頃には「羨ましい」感情も弱くなってきているのがわかるだろう。

ここに簡単に書いてしまったことは、^⑦ 実際により抜くのはなかなか大変なときもある。しかし、「羨ましい」感情が強いとき、自分のなかに何かが未だ注目されずに棄てられているはずだと思つて、探してみたり、いろいろ試してみたりするのは、それほど悪くはない。そのためにエネルギーを消費する方が、他人に愚痴をまき散らしたり、他人の足を引張るためにエネルギーを使うよりは少しはましだと思われ^⑧る。

(河合隼雄著 『こころの処方箋』より)

問一 ｝ a ｝ d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 《 A 》・《 B 》 に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア ところで イ しかし ウ だから エ たとえば

問三 I にあてはまる語句を文章中から二字で抜き出して書きなさい。

問四 II にあてはまる語句を文章中から七字で抜き出して書きなさい。

問五 ③ 「あんがいな」の文章中の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 意味深な イ 意外な ウ 巧妙な エ 難解な

問六 — ⑧「れる」の文法上の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 受身 イ 尊敬 ウ 可能 エ 自発

問七 — ①「羨ましい」とありますが、この感情はどういうものですか。その説明をした次の文の空欄にあうように、文章中から二十字で抜き出して書きなさい。

羨ましいというのは、（ ）時に起こる感情であるが、常にその気持が湧くわけではないものである。

問八 — ②「よしあしを言う前にそれはそれと認めることにしよう」とありますが、なぜ「認める」のでしょうか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 「羨ましい」という気持ちは、他人を思いやるために必要なものだから。

イ 「羨ましい」という気持ちは、幸福な人生を送るための重要な要素だから。

ウ 「羨ましい」という気持ちは、意図せずしてわき上がってくるものだから。

エ 「羨ましい」という気持ちは、表明しなければ自己否定になってしまうから。

問九 — ④「X」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 他人の能力と比べて自分の価値を下げること。

イ 自分が強く苦痛を感じないように避けること。

ウ 自分の中にあるまだ気づいていない能力のこと。

エ 人生において欠かすことのできない条件のこと。

問十 — ⑤「『羨ましい』気持が表明されるとき」とありますが、『羨ましい』気持にはどういう役割がありますか。文章中から適当な箇所を四十五字以内で抜き出して、最初と最後の五字を書きなさい。

問十一 — ⑥「それ」とありますが、どのようなことを指しますか。文章中から二十字以内で抜き出して書きなさい。

問十二 — ⑦「実際にやり抜くのはなかなか大変なときもある」とありますが、なぜ「大変」だと考えられますか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 他人をねたむ感情から脱出するためには、努力することを避けては通れず、難しさや苦しみを伴うから。

イ 他人をねたむ感情から脱出するためには、自信を身に付けて前向きになることが必要であり、その気持の転換は困難なことであるから。

ウ 他人をねたむ感情から脱出するためには、他人と自分を比較することは欠かせないが、それによる精神的な落ち込みが大きいから。

エ 他人をねたむ感情から脱出するためには、自分自身と向き合う必要がある、自分の短所を明らかにする必要があるから。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

梓^{あずさ}が女手一つで育ててきた十四歳の娘・唯^{ゆい}は数年前から心を閉ざしてしまい、母娘の会話もほとんどなくなっていった。そんな唯が、親同伴の体験学習で新潟県の佐渡島に行つてトキを見たいと言つてきたことから、ふたりは一泊二日の旅に出る。次の文章は、梓と唯が民泊先の中川家で、主である努から絶滅した日本の野生のトキにまつわる話を聞いていた場面である。

※¹ 「トキ、見られますか」

見ると、唯^{※2}が亮太と同じように膝^{ひざ}を抱えて、努^①をみつめている。努は微笑んだが、何も答えなかった。すると、もう一度、もつと大きな声で唯が言った。

「明日帰るまでに、トキ、見られるかな」

「それは……」と梓^{あずさ}が口を挟^{はさ}もうとすると、

「見られるっちゃ」

そう答えたのは亮太だった。唯は亮太のほうへ顔を向けた。少年は体育座りの姿勢のまま、「見られるとこまで、連れてっちゃうし」と、ぼそつと言った。

「……ほんと?」

ためらいがちに唯が返す。亮太は、自信たっぷりの笑顔になって、大きくうなずいた。

「あーあ、ちよん^(そんなこというと)こと言うて、だつちやかんじえ。確率低いっちゃよ、唯ちゃん」

父に [] を差されても、亮太は聞かない。

※3 「ピオトープじゃねえ、トキが餌場えさばにしとるとこ知つとるけん。明日の朝、連れてっちゃう」
頬ほおを紅潮aさせて、唯bをサソcつた。かたくなだつた唯の表情が、みるみる明るくなった。

もう何年も見たことがないような笑顔がこぼれた瞬間、梓の胸の中で、ことん、と心臓が静かに音を立てた。
あわてて畳の上を亮太のほうへ膝で這はっていくと、

「おばさんも連れてつてくれる？」

そう訊きいた。亮太はもうひとつ、大きくうなずいた。

「保証はできんっちゃよ、お母さん」

苦笑しながら努くまが釘くぎを刺す。ワークシヨップを開くたびに、野生のトキが見たい、と子供たちに困らされているのだろう。けれど、梓には、トキを見られても見られなくても関係なかった。

見られなくなつたつていいんだ。いま、この島のどこかに、ひっそり点とり続ける命のともしびがある。

そう唯が気づいてくれれば、それでいいんだ。

見渡す限りの刈り入れ後の水田を、朝日がいっぱい照らし出している。

遠く横たわる山々では、赤や黄色の紅葉が色鮮やかに裾すそを広げている。壊れそうに冷たく冴さえわたる青空に向かつて、亮太が顔を上げる。大きく息を吸いこむと、思いきり叫んだ。

こーい、こーい、こーい。

声変わりしたばかりの、大人と子供の間の中間の声。梓と唯は、声が放たれた空の彼方をじつとみつめる。

こんなにもまぶしい風景のどこかに、あの美しい鳥たちが息づいている。それは、胸むねのすく現実だつた。絶えかけた命をつないで、生きているのだ。

その奇跡を喜ぶ人間が、ここにいる。

こーい、こーい、こーい。

日本の最後のトキ、キンを呼び寄せたという金太郎を真似まねて、亮太はトキを呼んだ。その叫びにこもる少年らしいひたむきさが、梓の胸を打った。

一時間、呼び続けた。最後には唯までが、こーい、こーい、こーい、こーい、と亮太と声を合わせて叫んだ。少年と少女の声は、遠慮がちに

奏^cでる楽器のように、最初はてんでにばらばらで、やがて和音を作った。梓は、その青くたおやかな斉唱に、静かに耳を傾けた。フェリーの出航時間が近づいている。そろそろ、努たちの待つ家へ戻らなければならぬ。梓が腕時計をちらりと見た瞬間に、亮太がこちらへ向き直って、ぺこりと頭を下げた。

「ごめんなさい」

叫び続けて声はかすれてしまっていた。梓は微笑した。

「どうして？　なんであやまるの？　こっちがお礼言わなくちゃいけないのに」

すると、亮太に向かって、唯が突然ぺこりと頭を下げた。

「ありがとう」

ふたつの澄んだまなざしが、ぴつたりと重なった。亮太は照れくさそうに笑うと、

「ごめん。飛んでこんかった」

そうつぶやいた。唯は首を横に振った。

「来たよ。見えた」

そして、セーターの小さなふくらみの上に、そっと自分の両手を重ねた。

おおーい、亮太、唯ちゃん、と呼ぶ声がして、三人はあぜ道の向こう側へ振り向いた。しびれを切らした努が迎えにきたのだ。梓は笑顔になって、手を挙げて合図した。

「な。こいつが呼んだって来ねえっちゃろ？　だめだぞおめ、女の人に嘘^{うそ}ついちゃ」

そんなことを言っつて、父は息子のかた^dたをぼんぼんと叩^{たた}いている。梓と唯は、目を合わせた。そしてふたりで、くすくすと笑い出した。

(原田マハ著『星がひとつほしいとの祈り』より)

※1 トキ……中国から日本に贈られたトキの子孫。人工繁殖^{はんしよく}に成功し、野生に復帰させるため、十羽が放鳥^{はうちよく}されていた。

※2 亮太……努の息子。唯と同じ年である。トキについては大変詳しい。

※3 ビオトープ……動物や植物が生活できるように造られたり復元されたりした小規模な生息空間。公園や河川などに取り入れられる。

問一 〃 a d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

問二 に補うべき最も適当な語を漢字一字で書きなさい。

問三 ②「かたくなだった」・⑥「胸のすく」の文章中の意味として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

②「かたくなだった」

ア おびえていた

イ こわばっていた

ウ 生気がなかった

エ 眠そうだった

⑥「胸のすく」

ア 心が晴れる

イ 心が動く

ウ 心が痛む

エ 心が騒ぐ

問四

—— ①「努は微笑んだが、何も答えなかった。」とありますが、努が唯の問いに答えなかったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア トキを見られるかと唯が尋ねたのは社交辞令だとわかっていたため、はつきりとした返事は必要ないと思ったから。

イ トキは人間に対してストレスを感じる生き物であるため、唯たちをトキに近づけたくないという本心を隠そうとしたから。

ウ 野生に帰したトキを見られる可能性は極めて低いという現実を唯が知らないことに驚き、思わず笑いそうになったから。

エ 野生に帰したトキを唯に見せてやりたいという気持ちはあるが、トキを見られる可能性が低いため返答に困ったから。

問五

—— ③「梓の胸の中で、ことん、と心臓が静かに音を立てた」とありますが、この時の梓の気持ちとして最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 唯と亮太がトキを見に行くことで仲良くなってしまうと、母である自分から娘の心がますます離れていくのではないかと不安に思う気持ち。

イ 同年代の男子と二人でトキを見に行くことを唯が恥ずかしがるのではないかと心配し、自分が付き添うことで娘を安心させたいという気持ち。

ウ トキを見に行くことで唯が心を開ききつかけを得られるかもしれないと感じ、母親として娘を見守りたいと思う気持ち。

エ 今まで感情を表さなかった唯のトキに対する熱い思いを感じ取り、何としても娘にトキを見せて喜んでもらいたいと強く願う気持ち。

願う気持ち。

問六 — ④「ひっそりやり続ける命のともしびがある」とありますが、これと同じ内容の表現を文章中から二十字以内で抜き出して書きなさい。

問七 — ⑤「壊れそうに冷たく冴えわたる青空に向かって、亮太が顔を上げる。大きく息を吸いこむと、思いきり叫んだ。」とありますが、亮太がトキを呼ぶ様子からどのようなことが感じられますか。文章中から十字で抜き出して書きなさい。

問八 — ⑦「青くたおやかな斉唱」とありますが、これはどのような様子を表していますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 成長期にある亮太と唯が、声を合わせて懸命にトキを呼ぶ様子。

イ お互いに好意を抱いている亮太と唯が、意識し合っている様子。

ウ 変声期を迎えた亮太が、大人と子供の中間の声でトキを呼ぶ様子。

エ 亮太の姿が、日本最後のトキを呼び寄せた金太郎の姿と重なっている様子。

問九 文章中の内容として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 娘との関係に疲れ切っていた梓だったが、努たち親子との交流や佐渡の自然に触れることで自分らしさを取り戻すことができた。

イ 念願だったトキを見ることはできなかった唯だが、努や亮太たちとの交流によって、それまで閉ざしていた心が少しずつ解けていった。

ウ 唯にかっこいい所を見せたい一心でトキを見に行こうと誘った亮太だったが、トキが現れなかったためかえって気まずい思いをした。

エ 梓と唯はトキを守る親子と出会い、共に過ごす中で自然に対する意識に変化が芽生え、環境保護の重要性を痛感するようになった。

問十 文章を二つの場面に分ける場合、後半はどこから始まりますか。後半の始まりとして適当な箇所を抜き出して、最初の五字を書きなさい。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

京極太政大臣宗輔公は、蜂をいくらともなく飼ひ給ひて、「何丸」「か丸」と名を付けて、よびたまひければ、召しにしたがひて、

恪勤者などを勘当したまひけるには、「何丸、某として来。」とのたまひければ、^①そのままにぞふるまひける。

出仕の時は車のうらうへの物見にはらめきけるを、「とまれ。」とのたまひければ、とまりけり。世には蜂飼ひの大臣とぞ申しける。

不思議の徳おはしける人なり。漢の簫芝が雉をしたがへたりけるにことならず。

この殿の蜂を飼ひたまふを、世人、無益の事といひける程に、五月のころ、鳥羽殿にて蜂の巢にはかに落ちて、御前に飛び散りた

りければ、人々刺されじとて逃げさわぎけるに、相国、御前にありける枇杷を一房とりて、琴爪にて皮をむきて、さし上げられたり

ければ、(蜂の) ある限り取りつきて、散らざりければ、供人を召して、やをらたびたりければ、院は「かしこくぞ、宗輔が候ひて。」

と仰せられて、御感ありけり。

『十訓抄』を一部改題

※1 恪勤者：院・親王・大臣家などの雑務を務める侍。

※2 勘当：しかること。

※3 簫芝：前漢の人。簫芝には数千羽の雉が常につき従っていた。

※4 琴爪：琴をひくときに、指先にはめる道具。

※5 供人：供をする人。従者。

問一 〃〃〃 a 「五月」の月の異名をひらがなで書きなさい。

問二 〃〃〃 b 「にはかに」を現代かなづかいで書きなさい。

問三 — ①「そのままにぞふるまひける」の主語を次のア、エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 宗輔 イ 蜂 ウ 恪勤者 エ 世人

問四 — ②「不思議の徳」とはどういうことですか。最も適当なものを次のア、エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 宗輔が、飼っている蜂たちに試練を与えられたこと。

イ 宗輔が、飼っている蜂たちに名前をつけたこと。

ウ 宗輔が、飼っている蜂たちに命を助けられたこと。

エ 宗輔が、飼っている蜂たちを自分の思い通りに操ったこと。

問五 — ③「御前にありける枇杷を一房とりて」とありますが、宗輔は何のために枇杷をとったのですか。最も適当なものを次のア、エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 巢から飛び出した蜂を枇杷に集めるため。

イ 従者と共に枇杷を食べるため。

ウ 枇杷が食べごろかどうかを確かめるため。

エ 枇杷が食べごろであることを院に伝えるため。

問六 — ④「かしこくぞ、宗輔が候ひて。」とありますが、鳥羽院が「運が良かった」と言ったのはなぜですか。最も適当なものを次のア、エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 宗輔のおかげで蜂の能力がよくわかったから。

イ 宗輔のおかげで蜂に刺されずにすんだから。

ウ 宗輔のおかげで自分の本当の味方がわかったから。

エ 宗輔のおかげで枇杷をとられずにすんだから。